

民主敗北 遠い復調

統一地方選の結果を巡る民主党幹部らの発言(いずれも13日)

退潮傾向に歯止めがかかったと分析
底打ち派



枝野幹事長

政権を失った2012年衆院選以来、マイナスから再出発し、ゼロまで戻し、与党時代の水準まで戻せたということは、底打ちをして戻しつつある流れができたと受け止めていた。(国会内で記者団に)

踏みとどまつたということだと思う。(政権を奪われた直後の)2年前に選挙があったら、もっと成績が悪かっただろう(記者団に)

退潮傾向に歯止めがかかっていないと分析
底なし派



細野政調会長

(政権交代してから)2年半ほどの民主党の厳しい傾向が、まだ歯止めがかかっていないといふことだと思う(静岡県庁での記者会見で)

仲間を失つたことを、党として厳しく受け止めるべきだ。政権を失つてから2年半ほどが過ぎ、党の存在意義が改めて問われている(記者団に)

長島昭久
元防衛副大臣



統一選前半戦

政令市議選 共産下回る

「底打ち」「底なし」総括二分

民主党は統一地方選前半戦で議席を大幅に減らしたことで、党勢の地盤沈下が止まらない危機感が広がっている。当初は反転攻勢の足がかりと位置付けていたが、政令市議選では共産党を下回る「野党第2党」の勢力に転落するなど、目標とは程遠い結果に終わつたためだ。党内には、政権奪還に向けたシナリオを描けない執行部への不満にとどまらず、党の将来性を悲観して、野党再編を求める声も再び出始めている。<本文記事2面>

岡田代表は13日の党役員会で、「全国的に厳しい状況戦を強いられたとの認識

を示した。

ただ、選挙結果の総括をめぐっては、退潮傾向に歯止めがかかる「底打ち」派と、今後も党勢低落が続く「底なし」派で、意見が分かれている。

枝野幹事長は、党勢の衰退が「底を打つた」との認識だ。道府県議選の前回の1議席を除き、前回14議席から126議席に減った。得票同数で14日に当選者が決まる熊本県議選では告示前勢力が275人に減った事情を考慮しているためだ。枝野氏は13日、国

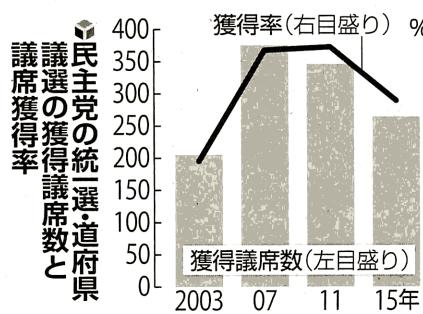
会内で記者団に「若干の微減だが、ほぼ現有を維持できる流れだ」と強調した。

執務部は当初、統一選で候補の当選がゼロに終わつた。大阪市議選では党公認候補の当選がゼロに終わつた。

2年衆院選か13年参院選の

辺りで底打ちして戻しつつある流れた」と総括し、「2012年衆院選か13年参院選の

内閣と政策実現の道に進むべきだ」との姿勢に傾いてい



41道府県議選での獲得議席は、前回比82議席減の264議席に落ち込んだ。政令市議選では、公明、共産両党の後塵を拝し、第4党に後退した。得票同数で14日に当選者が決まる熊本県議選では告示前勢力が275人に減った。その後の党分裂などの影響で、岡田執行部が、党再建の戦略を打ち出していかない限り、党の将来性をめぐる見方の違いが党内政局の火種となる可能性がある。

島昭久元防衛副大臣も「党の自主再建をあきらめ、野党再編を進めるべきだとの声も出始めている。岡田執行部が、党再建の戦略を打ち出していかない限り、党の将来性をめぐる見方の違いが党内政局の火種となる可能性がある。

岡田幹事長は、「底なし派」との見切りをつけ始めている。松野幹事長が導こうとする野党再編は維新内ではぼみかねない状況だ。橋下氏側近は「今のままなら、民主党は消えていく」と語り、